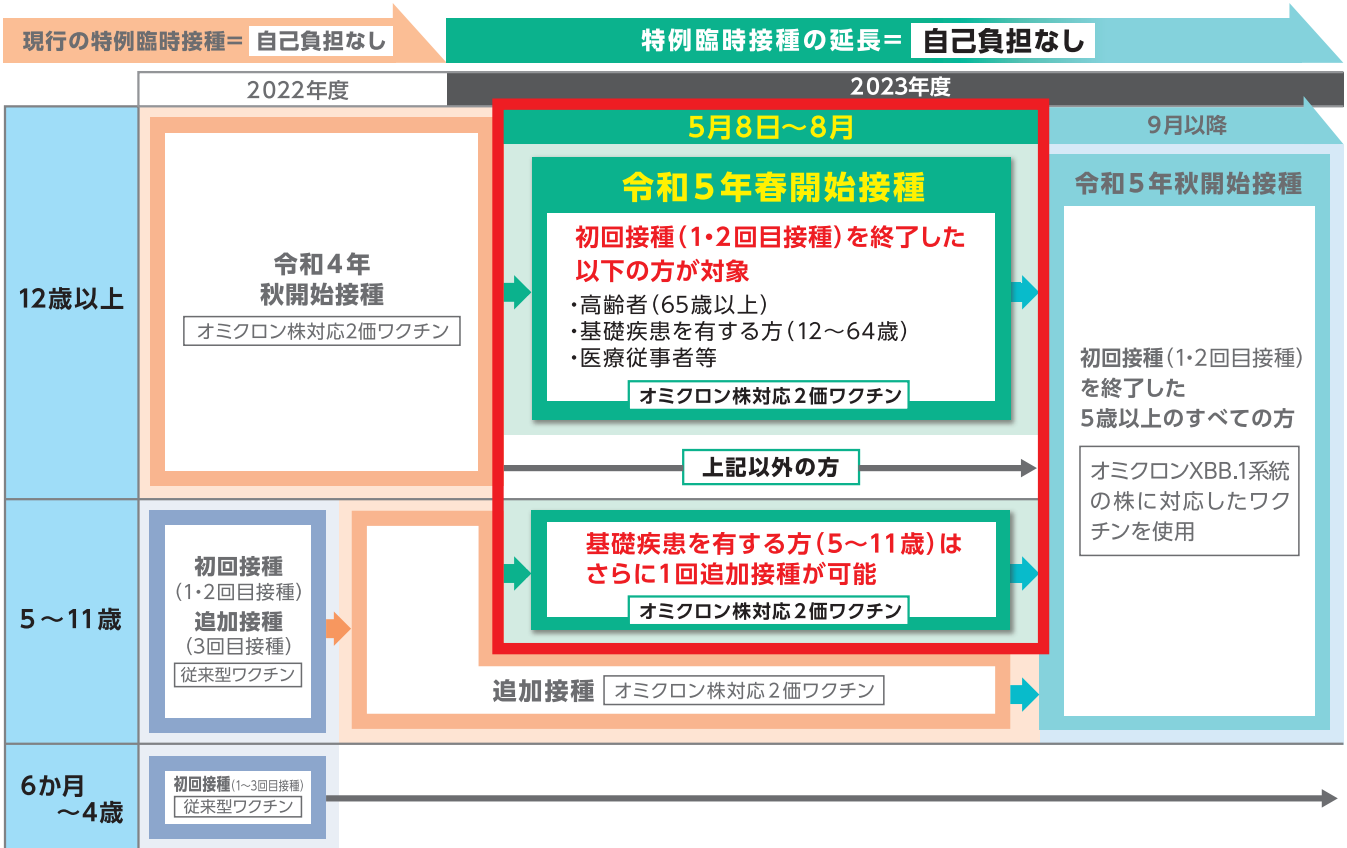




# 現行のオミクロン株対応2価ワクチンは オミクロンXBB系統株による重症化を予防します



現行の令和5年春開始接種で実施している重症化リスクが高い方に対する接種は、重症化予防の観点から、現在入手可能なワクチンである既存2価ワクチンを用いて、引き続き実施しています。



注1: 12歳以上の追加接種には、最後の接種から3か月以上間隔をあけて、オミクロン対応2価ワクチンが使用できます。ただし、何らかの理由で mRNA ワクチンの接種を希望されない方は、最後の接種から6か月以上間隔をあけて、武田社ワクチン(ノババックス)(12歳以上)を受けていただくことも可能です。  
 注2: 5~11歳の追加接種には、最後の接種から3か月以上間隔をあけて、オミクロン対応2価ワクチンを用いることになります。従来型ワクチンは使用できません。  
 注3: 6か月~4歳は初回接種(1~3回目接種)のみです。従来型ワクチンを使用します。  
 注4: 接種回数や接種証明については、お住まいの市町村にお問い合わせください。

## 初回接種がまだの方

初回接種(従来型ワクチン)は5月8日以降も引き続き受けられます。  
**まずは、初回接種を受けてください。**

## 令和5年度接種の対象となる方

令和5年春開始接種(5~8月)	対象となる方	努力義務
高齢者(65歳以上)	○	あり
基礎疾患を有する方(5~64歳)	○	あり
医療従事者・介護従事者等	○	なし
上記以外(5歳以上)	—	—

令和5年秋開始接種(9~12月)	対象となる方	努力義務
高齢者(65歳以上)	○	あり
基礎疾患を有する方(5~64歳)	○	あり
医療従事者・介護従事者等	○	なし
上記以外(5歳以上)	○	なし

(※)65歳以上の方や基礎疾患のある方には、春開始接種と秋開始接種の1回ずつの接種をおすすめしています。

## 「基礎疾患を有する方」について

令和5年度の接種における「基礎疾患を有する方」の範囲については、国の審議会において、現時点の科学的知見等に基づいて検討され、以下とすることとされています。

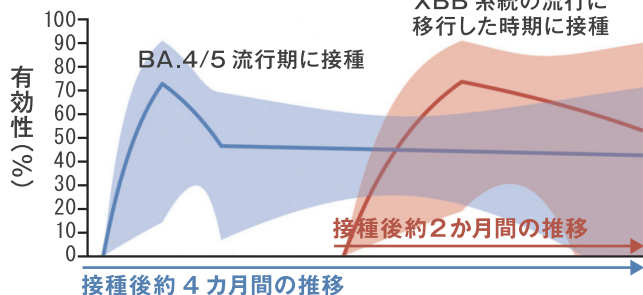
すべての年齢	<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性の心臓、腎臓、呼吸器、肝臓の病気がある方</li> <li>病気や治療によって免疫の機能が低下している方</li> <li>神経疾患や神経筋疾患を原因として、身体機能が低下している方</li> <li>染色体異常のある方</li> <li>血液の病気のある方(18歳以上で鉄欠乏性貧血の方は除く)</li> <li>その他、新型コロナにかかった場合に重症化するおそれ大きいと医師が認める方</li> </ul>
18歳以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>インスリンや飲み薬で治療中又は合併症のある糖尿病の方</li> <li>睡眠時無呼吸症候群の方</li> <li>重い精神疾患がある方</li> <li>知的障害がある方</li> <li>BMI(BMI=体重(kg)/身長(m)<sup>2</sup>)が30以上の方</li> </ul>
18歳未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>代謝性疾患がある方</li> <li>悪性腫瘍がある方</li> <li>膠原病がある方</li> <li>内分泌疾患がある方</li> <li>消化器疾患がある方</li> </ul>



**Q. 令和5年春開始接種で用いられているオミクロン株対応2価ワクチンは、今流行しているXBB系統に対して効果があるのですか？**

**A. オミクロン株対応2価ワクチンは、オミクロンXBB系統株の感染による重症化を予防します。**

死亡予防効果の推移



米国における研究では、オミクロン株対応2価ワクチンの効果を分析したところ、XBB系統株に対しても接種後約2か月の間、死亡を60~70%程度予防する効果が持続することが報告されています。

出典: Lin DY, Xu Y, Gu Y, et. al; Durability of Bivalent Boosters against Omicron Subvariants. N Engl J Med. 2023;10.1056/NEJMc2302462. を一部改変

こうした科学的知見を踏まえ、令和5年春開始接種の対象者である重症化リスクの高い方には、オミクロン株対応2価ワクチンを用いて接種を行うこととしています。

これまでの状況等によると、夏の間には一定の感染拡大が生じる可能性があります。**重症化リスクの高い高齢者の方などは現行のオミクロン株対応2価ワクチンの接種をご検討ください。**

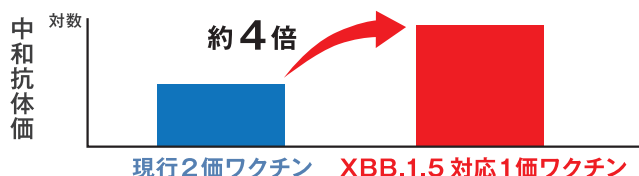
令和5年秋以降の接種に用いるワクチンについて

**Q. 秋以降の接種ではワクチンの種類が変わるのですか？**

**A. 国内外の流行状況や今後の開発状況を踏まえて、よりオミクロンXBB.1系統(※)の株に対応したワクチンを選択することとしています。**

(※) XBB系統から亜種が派生しており、XBB.1系統はそのひとつです。

XBB.1.5に対する中和抗体価の上昇(マウス)



現在開発中のXBB.1.5対応1価ワクチンは、非臨床試験(マウスを用いた試験)において、XBB.1.5に対して現行2価ワクチンよりも高い中和抗体価を誘導することが報告されています。

出典: FDA会議資料(2023/6/16)の企業提出資料から作成

今後のワクチン接種については、オミクロンXBB.1系統の株に対応したワクチンを用いることで、より高い中和抗体価の上昇等が期待されることから、**重症化予防効果はもとより、発症予防効果の向上が期待される**と考えられています。

◎ワクチンを受けるにはご本人または保護者の同意が必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人または保護者の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方または保護者の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

◎予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村等にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

